



**第8回ふれあい人権講座
国立療養所大島青松園視察研修**

ハンセン病問題から学ぶ。二度と同じ過ちを繰り返さないためにハンセン病について正しく理解を深めました。ハンセン病療養所は全国に14か所あります。大島青松園では現在56名の方が生活されています。社会交流会館にはハンセン病の歴史、医学から見た病気の構造について、正しく理解できる展示がありました。入所者の方が生きがいとして製作した様々な文化作品も展示してありました。

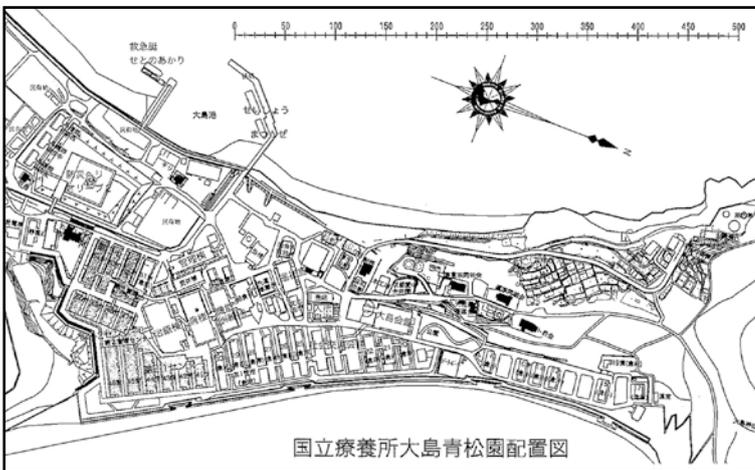
園内見学では、目の不自由な人の誘導方法として「ふるさと」と「乙女の祈り」が同時に園内に絶えず流されていて方向を示していました。道路には沢山の白線が引かれていました。治療終了後の方は、後遺症で末梢神経が失われていて足裏の感覚がないため点字ブロックは使用せず、少し見える人のために白線を引いてあるそうです。日



常生活に困らないようにされています。

次に納骨堂を見ました。大島青松園では明治42年の開園以来、平成29年までに2144名を超える入所者がなくなりました。園内には石仏や88か所の地蔵が建てられています。大正時代の終

わり頃に本山寺の住職とその意志を継いだ實相寺住職が東奔西走して篤志家を募り四国八十八か所霊場の模型を作り寄贈され、島内で四国八十八か所寺巡りができるようになりました。入所者さんの講話を聞きました。65年間大島で暮らしてこられたご自身の体験や入所者さんから聞かれたお話、家族も差別や偏見の対象にされたお話をされ、この島で暮らしてきた人たちがお互いに支え合い生きてきた命の大切さを伝えてくださり、私たちがハンセン病について正しく理解し、偏見や差別を無くすために人権が尊重される社会を実現されるためにはどうすれば良いかを考えることができました。



国立療養所大島青松園配置図

**第10回ふれあい人権講座
のお知らせ**

映画「杉原千畝」

激動の第2次世界大戦下。外交官として赴任していたリトアニアで、ナチスの迫害から逃れてきたユダヤ難民に、日本通過ヴィザを発行し、6000人の命を救った1人の日本人がいました。その人の名は杉原千畝。日本のシンドラーとも呼ばれています。戦後から70年の節目となる2015年に製作された映画から、杉原千畝の生きざまに触れてみませんか。

日時 1月9日(木) 午後2時〜
会場 日南町人権センター

**12月の人権相談・
行政相談のご案内**

日常生活の困りごと、人権問題、行政に関する事など相談に応じております。

相談内容については一切秘密が守られます。無料ですので、どうぞお気軽に相談下さい。

日時 12月13日(金) 9時〜12時
場所 子育て支援センター
お問い合わせ

TEL 82-00076

